



Rainbow letter

2017.2
No.7

日本周産期メンタルヘルス学会・ニュースレター

<<次回学術集会開催予定>>

第14回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会「こころも、視る。」

日時・2017年10月28日(土)・29日(日)

場所・大分県医師会館 (〒870-8563 大分市大字駄原2892の1)

会長・佐藤 昌司 (大分県立病院総合周産期母子医療センター所長・産科部長)

- ◆詳細は決まり次第、ウェブサイトとメールでご連絡いたします。
- ◆魅力あふれる大分で、皆様のご参加をお待ちしております。



<イベント参加報告>

第29回日本総合病院精神医学会総会報告

東京の神保町にある日本教育会館にて、第29回日本総合病院精神医学会総会が2016年11月25、26日の2日間にわたって開催されました(会長:慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 三村将教授)。

ニュースレターNo.3に掲載されているように、日本総合病院精神医学会とは、本学会との連携を深めていくために2015年12月双方の理事長と理事との懇談会を執り行っております。懇談会の場でも話題になりましたが、今回の総会において、「周産期精神医学の最新の課題—地域連携、診療報酬改定、自殺、薬物療法—」をテーマとしたシンポジウムが採択され、岡野禎治理事長、鈴木利人理事、渡邊博幸理事、そして竹内がシンポジストとして講演いたしました。岡野理事長が、「妊産婦の自殺に関するエビデンスと提言」、竹内が、「総合病院精神科に求められる周産期メンタルヘルスの課題」、渡邊理事が、「医療経済的な観点からみる周産期メンタルヘルスの展望」、鈴木理事が、「向精神薬と妊娠・授乳:10の原則」と題し、それぞれの立場から話題提供をしましたが、会場は立ち見が出るほどの盛況ぶりであり、フロアからも多くの質問があり関心の高さがうかがわれました。

本学会同様、多職種で構成されている学会ということもあり、今後はさらに連携を活発化し、共同研修、研究、提言など行っていける可能性を感じることができました。

(理事/竹内崇/東京医科歯科大学医学部附属病院精神科講師)

<学会事務局便り>

学会誌 投稿論文募集について

次号学会誌(2017年5~8月頃)の投稿論文を募集しております。奮ってご応募ください。

論文投稿締切日は2017年2月28日(火)までといたします。ご投稿いただきます際は、投稿規定をご参照の上、締切日までにお送りください。

コンセンサスガイド作成について

日本周産期メンタルヘルス学会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会の3学会による「妊産婦メンタルヘルスに関する合同会議」を経て、日本周産期メンタルヘルス学会のガイドラインを作成することが、昨秋の総会・評議員会で報告されました。その後、ガイドライン検討委員(コア委員会)で検討し、2016年12月10日の第2回評価会議において、コンセンサスに基づく「ガイド」として作成することが決まりました。

2017年2月4日には、第3回評価会議が開催されました。体裁の小修正を経て日本周産期メンタルヘルス学会のコンセンサスガイド(ドラフト)として、ウェブサイト上に公開し、広く御意見等を募集(パブリック・コメント)する予定です。パブリック・コメントの詳細については、ウェブサイト掲載とメール配信で御案内いたします。よろしく願いいたします。



17.2.4 評価会議

(投稿記事募集!)

会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。詳しくは学会ウェブサイト(QRコード、<http://pmh.jp/index.html>)または、学会事務局(E-mail:mental-3@hac.mie-u.ac.jp)まで。

*企画・発行:日本周産期メンタルヘルス学会 事務局・情報関連委員会

